

## 骨粗鬆症



幼少の頃は病気がちだった私だが、結婚後は病気がらしい病気はしなくなった。入院したのは、虫垂炎と出産のときだけである。風邪などで寝込んだとしても、記憶にあるようなものはない。しかしこの頃はよく微熱が続くことがある。

三年前、夫が鹿児島に引退してから、一時ゴルフに連れ出されたことがあった。薄暮というホールのカヤテイ無しの安いコースだったが、クラブを振り回した後、ゴロゴロとバッグを自分で引つ張って行かねばならない。それはかりではないだろうが、朝、微熱が続くようになった。鹿児島島の信頼のある病院を紹介してもらい、こまこまと健康診断をしてもらったが、異常なしのことだった。そして初冬の頃には自然と元に戻っていた。

昨年、父の後を次いだ三男の第一回の霧ヶ峰昭和

寺の戦没者慰霊の大法要を手伝った。大導師に仏教界の最高峰であられる天台座主渡辺恵進師をお迎えた。老齢の身で、車で比叡山からはるばる信州諏訪の霧ヶ峰までいらして下さった。生憎雨天になって、七月とはいえ山は冷えて、とても寒かった。私はお風邪でも召されてはととても緊張していた。お集まりの方々のいる大広間のある二階と、お勝手の一階の間を往復するのも大変な労働であった。鹿児島に戻ってから、また二カ月間は微熱の日々であった。

この夏は自業自得といふべきだろうが、結構忙しかった。原稿に追われたり、車で遠征したり、来客があつたり、何よりも毎日名物のお饅頭をつくらねばならないのだ。四国から娘がやって来た頃もすでに調子が悪かった

一週間も微熱が続く。考えてみるとその時は大抵高血圧になっていて、薬を飲んでいる時である。血圧が高い時は、真面目に飲むのだが、一カ月ほどして飲まないでも高くない日が続くようになるやめ

ていた。かかりつけの医者に行つて、

「微熱が続くのですが、血圧の薬のせいでしょうか」

と聞くと、先生は笑つて否定し、三種類の薬を三日分くれた。そして

「こつという境界辺にいる人が、かえつて危ないのですよ。高い人はちゃんと薬を飲むからそんなに危険にはならないのです」

と注意された。薬はなるべく飲まない方がよいのかと思つたのは間違ひのようだ。

今年の法要は去年に比べて、こじんまりとしたものだった。しかしよせばいいのに、思慮の足りない私は、横山町の問屋からお土産を入れる紙袋百枚を買つて、都営新宿線から中央線のあざさ号の5番線までをその重い包みを下げて歩いたのだ。それがたつたて、諏訪に着いたときは腰痛になつてしまつた。しかし影の主権者として私が動かない訳にはいかない。無事終わつて鹿児島に帰つた夜はもう這つようになつてしまつていた。

一週間しても微熱が続き、歩行も痛む。医学書をあれこれ引つ繰り返して見ると、どつやら「変形性股関節炎」のように思えた。頑張つて済生会病院まで出掛けて整形外科で診て頂く。まだ若い先生は、四枚の股関節のレントゲンを丁寧に眺めて

「炎症を起こしている処はありません。骨粗鬆症です。痛むのは筋肉痛でしょう」

といわれた。湿布は肌にあわないと言つと温泉がいいでしょうとのこと。無理はしないようにということ。重労働は出来ないということらしい。前々から重い物は持たないように用心していたのは正解だったのだが、時に忘れて思わぬ無理をする。

もう法要から二週間になる。腰痛は殆ど終息して来たし、微熱はまだ続いているもののそれもあと一息といった感じがする。骨粗鬆症とは、何か怠ける口実が出来たよつな気分である。